

学位研究 第6号 平成9年8月 (論文)

〔学位授与機構研究紀要〕

## アメリカの大学院組織

Organizational Structures of Graduate Education in the United States

館 昭

Akira TACHI



# アメリカの大学院組織

館

昭\*

## はじめに

日本では大学院の量的、質的整備が課題となり、大学院をもつ大学が増加するとともに、いわゆる大学院重点化等の組織上の改革が始まっている。その際に最も大学院が充実していると考えられるアメリカ大学の大学院が話題となり、またモデル視されることも多い。しかし、アメリカの大学院の制度的な位置づけや組織形態、そしてその学位課程の性格は、日本のそれとは大きく異なる点があり、また日本語と英語の語彙の不一致から、それらを考慮しない議論が、往々にして無用の混乱の原因となっている。

筆者はこれまで、「アメリカの大学院の制度と組織」（館，1994）でアメリカの大学院の組織的なあり方を明らかにし、また「アメリカの学位における『中世』と『現代』」（館，1991）、「アメリカにおける学位と専攻分野の関係について」（館，1993）、「アメリカの大学院における専門職教育」（館，1993）、「アメリカの学位制度について」（館，1995）等においてアメリカの学位の種類や性格を全体的に捉えた実証的な研究を行ってきた。また、アメリカの大学院の組織と運営のあり方を知るための資料として、アメリカの大学院協議会（CGS）編の『大学院教育の組織と管理運営』を訳出し、紹介した（館，1994）。

本稿ではこれらの研究から得られた知見を統合的に発展させるとともに、アメリカの大学院組織を大学類型に即して具体的に分析し、アメリカの大学院組織と学位課程のあり方に関する正確な像を描こうとするものである。

なお、この研究に当たっては、特に中心事例としてウィスコンシン大学マジソン校及びホワイトウォーター校を選び、その組織や学位要件等について詳細な資料の提供をお願いし、協力を得た。記して感謝の意を表する次第である。

## 1. 学部に置かれた「学士取得者課程」の総括組織としての大学院（大学院本部）

アメリカの大学制度について記述する際に気を付けなければならないことは、日本語の語彙と英語（米語）のそれとが一對一に対応しているわけではないということである。また日本語の語彙は法令によって画一的に規定されてるものが多いが、アメリカの場合の用語は大学

---

\* 学位授与機構審査研究部教授

ごとにまちまちと言ってよく、そこから一般的な用語法を引き出しながら議論を進める必要がある。

まず、日本語の大学院と米語の「大学院」(グラデュエート・スクール)の間にはかなりの隔りがある。例えば、日本の大学院に相当するものに全部「大学院」の名称が付けられているわけではない。そして、アメリカでは「大学院」と「学部」は背反する概念ではないので、日本流の学部と大学院の関係をそのままにアメリカに当てはめると大変な誤解が生じることとなる。

日本の場合、学部は、学校教育法に「大学には学部を置くことを常例とする」、「大学の修業年限は、4年とする。ただし、特別の専門事項を教授研究する学部……については、その修業年限は、4年を超えるものとすることができる」、「大学を卒業した者に対し学士の学位を、……授与するものとする」とあるように、学士課程レベルの組織を指す。これに対して大学院は、同じく学校教育法に「大学には、大学院を置くことができる」、「大学は、……、大学院の課程を終了した者に対し修士又は博士の学位を授与するものとする」とあるように、修士、博士課程レベルの組織を言っている。つまり、「学部」と「大学院」の間には重なり合うものはなく、両者は背反概念である。

しかし、アメリカの大学の場合、一般に「学部」に当たるスクール(school)、カレッジ(college)あるいはファカルティ(faculty)と「大学院」に当たるグラデュエート・スクールとは背反概念ではない。ただし、カレッジについては、組織の名称ではなくカレッジ教育といって学士レベルの教育を指す用法がある。また組織の場合でも、特に文理学部(ファカルティ)の中の学寮制学士課程を指す用語法があり、この場合は同じファカルティが構成する大学院課程と区別して使われる。しかし、一般にアメリカの「学部」には、学士課程だけでなく、修士・博士課程も置かれる。また、学士課程しかもたない学部もあるが、反対に修士課程や博士課程しかもたない学部もある。そして、「大学院」に当たるグラデュエート・スクール(graduate school)という名称は、一般に多数の学部をもつ大学の場合には各学部に置かれた修士や博士課程を総括する組織を指す。グラデュエート・スクールではなく、グラデュエート・ディビジョン(division)の名称を用いている大学もある。また、アメリカでは学士課程をもたない学部が固有名詞として〇〇大学院(Graduate School of …)と称している場合がある。

日本で大学院といえば修士課程か博士課程を置く組織を指し、逆に修士、博士課程は大学院と名乗れなければならない。しかし、アメリカでは大学院(グラデュエート・スクール)と称する組織に修士、博士課程だけではなく学士課程が置かれてもいい。また、修士、博士課程だけの組織が単に学部(スクール、カレッジ)と称している場合もあるのである。さらには、大学院は各「学部」に置かれた修士、博士課程の総括組織の名称、後述の大学院本部ともいえる組織の名称である場合が多いのである。

なお、グラデュエート・スクールには別の日本語の大学院にはない語感をもっている。それはグラデュエート・スクールのグラデュエートが卒業生を意味するということである。このグラデュエートと言う概念は高等学校の卒業にも使うが、この場合は大学の卒業、つまり学士取

得者（バチェラー，bachelor）を指す。したがってグラデュエート・スクールの直訳は卒業学校、意識は学士取得者学校であり、そう訳せばグラデュエート・ディビジョンはグラデュエート・スクールの学士取得者学校に対して、学士取得者部門と訳し分けられる。それから、学部に大学院が置かれてはおかしいが、学部で学士課程の他にグラデュエート・プログラム（学士取得者課程）が置かれることに違和感はない。近年の改革で、日本では大学を卒業せずに大学院に入学できる、いわゆる「飛び級」が認められるようになったが、アメリカの大学院は大卒者学校であり、大卒でない者が入学を認められることはない。ただし、大学を早く卒業することはできるので、日本より早く大学院に入学できる。

さらに、グラデュエートの本来の意味に立ち返ってみると、「大学院」に修士、博士課程しかないということにはならない。グラデュエートは学士より上の教育課程を指すのであるから、「大学院」、つまり学士取得者課程には、修士、博士学位の課程の他に、さまざまな資格(Certificates)につながる課程が置かれることがある。その中には、エンジニア(engineer) やスペシャリスト(specialist) のように、学位(degrees) の一種とされるものも含まれている(館, 1995, pp. 10-11)。

日本では、戦後の学位制度で従来からの博士に修士が加わった他、「大学院を置く大学は、監督庁の定めるところにより、博士、修士その他の学位を授与することができる」(学校教育法)と、「その他の学位」に言及していた。しかし「その他の学位」が監督庁によって定められた実績はなく、この条項は学士を学位に列した今回の改革時に削除された。戦後、アメリカにならって挿入したと思われる「その他の学位」の文言は、日本の大学院が十全の発達をとげない中で、一応姿を消したことになる。

## 2. 戦前の大学院制度との類似性

さて、繰り返しになるが、アメリカの学部には学術分野別組織という以外の意味はない。日本では学部という言葉に学術分野別組織ということの他に、学士段階のみの組織という意味があり、大学院段階での学術分野別組織には研究科という別の名称を付けている。これに対して、アメリカの大学では学術分野別組織である学部で学士課程(undergraduate programs)と大学院学位課程(graduate programs)の両方が置かれている。例えば、工学という学術分野に対して、日本では工学部と工学研究科という2枚の看板が必要になるが、アメリカでは工学部(School of Engineering)の看板一枚があればよい。

ただし、アメリカの場合、同じ学部の中で、学生の教育課程としての学士課程と、修士課程や博士課程からなる大学院学位課程の間には明確な区別が存在することはいうまでもない。反対に、日本の場合、学部と研究科の2枚看板を掲げながら、実的には学部と研究科がほぼ一体で、学士レベルと大学院レベルの教育に明確な区別を欠く面がある。

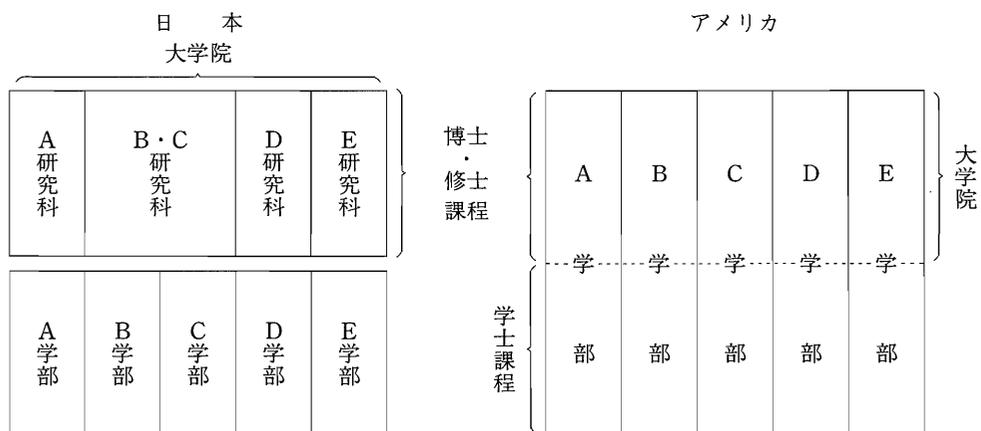
そして、アメリカで大学院という言葉は、多くの大学では各学部に置かれた大学院学位課程の総体を指す。また、組織面では、学部を超えた大学院学位課程の総括組織の名称として使わ

れる。この組織面での大学院の権限は全学部にあふ場合もあるし、一部の学部には及ばない場合もあるが、学部を超えて大学院学位課程の共通業務を担当する組織である。そこで、著者はこの組織をその意味をとって大学院本部と訳してきた（館，1994，p. 2）。

実は、戦前の大学制度における大学院の位置づけは、アメリカの標準的な大学院のあり方に近いものだった。つまり、大正7年制定の大学令第3条では「学部ニハ研究科ヲ置クベシ／数個ノ学部ヲ置キタル大学ニ於イテハ研究科間ノ連絡協調ヲ期スル為之ヲ綜合シテ大学院ヲ設クルコトヲ得」と、大学院は連絡調整組織と明確に規定されていたのである。学部に置かれた研究科を大学院学位課程と考えれば、戦前の大学制度はアメリカの大学院本部の考えに近く、おそらく当時のほうがアメリカの事情に精通した者が大学令の起草に参画したものと考えられる。ただし、戦前の学位をめぐる制度の運用は、博士学位のあり方など、法規の通りには行われず、この制度は生かされないまま戦後の改革を迎えた。そして、今度はアメリカ風を唱えながら実際には誤解にもとづく大学制度改革が実施され、その誤りが正されないままに現在にいたり種々の混乱を生んでいるものと思われる。この解釈は仮説的なものであり、断定するには相当の実証を要するが、結果からみれば、こう判断せざるを得ないのである。

さて、本題にもどると、とにかくここで確認しておかなければならないのは、アメリカでいう大学院は一般には学部の外の組織ではなく、'学部'に置かれた大学院学位課程の総体を指し、いわば学部と重なり合って存在するものだという点である。戦後の日本の大学院概念とアメリカのそれとの関係の違いを最も簡単に図示すると、図1のようになる。

図1 日本とアメリカの大学院と学部との関係



ただし、実際には学士課程と大学院学位課程が全部そろっているとは限らない。また、大学院本部の権限範囲は図2のようになかなりの幅があるものとなる。つまり、文理学部の学問修士のみを権限とするものから、大学院レベルの専門職学位のすべてを含み込むものまでである。

図2 大学院本部の権限範囲

(最も包含性が低い)	文理(学芸・科学)学部の学問修士 (M.A. /M.S.)	文理学部の学問博士 (Ph. D.)
	専門職学部の学問修士 (M.A. /M.S.)	専門職学部の学問博士 (Ph. D.)
	一部の専門職修士 (例えばM.S.W., M.P.A., M.F.A.)	一部の専門職博士 (例えばEd.D., D.P.A., D.V.M.)
	全専門職修士 (M.B.A., Engin. を含む)	全専門職博士 (J.D., M.D. を含む)
	(最も包含性が高い)	

こうした日米の組織上の違いは、学部の次の組織単位である学科についてもあてはまる。日本の学科に該当するアメリカの組織はデパートメント (department) であるが、日本の場合には、学部は学士段階の組織で、学科は学部に置かれるものだから、学科は学士段階のみの組織単位とされる。これに対してアメリカの学科は、学士課程と大学院学位課程の両方に関する専門分野は別組織である。例えば、電子工学という専門分野に対して日本の大学では電子工学科と電子工学専攻という二重の組織が必要となるのに対して、アメリカの大学では電子工学科があるだけでよい。

### 3. 研究と教育分離の意味

アメリカの大学院については、とかく日本流の学部から独立した教員からなる組織というイメージがあり、またそれら研究と教育の分離と言った概念とも結びついている。しかし、事実はこれに反しており、逆に大学院を担当する教員組織が学士課程の教育も担当する点にこそアメリカの大学の特徴とされている。パートン・R・クラークとガイ・R・ニープが編集した『高等教育百科辞典』(1992年)では、「大学院教育：比較」の項で、この点を以下のように説明している。「アメリカの大学院教育の独特の方式は、大学院段階の課程を学士教育の学部の上部に設置したことにある。すなわち大学院段階と学士段階の教育が単一の教員組織(a single faculty)の権威のもとに置かれた。」(Clark & Neave, 1992a, p. 1117)と解説している。また、同じ辞典の「カリキュラム：大学院」の項では、「この(研究と教育の統一の)理念は、19世紀の終わりの30年間の大学改革運動の高揚期に、アメリカのシステムに組み込まれた。研究と教育の統一の概念が受け入れられたのは、学士教育に研究を加えることによってではなく、学士教育組織を(自由教育と専門職教育の予備教育に選択制を導入することによって)変革し、大学院を発展させることによってであった。この変革によって、学士課程と大学院学位課程は単一の教員組織の担当するものとなった。」(Clark & Neave, 1992a, p. 1558)と説明している。つまり、学士課程は教育のための課程という意味では研究と教育は分離されるが、教員組織は学士課程と大学院で分離されない、研究と教育の統一と分離の巧妙なアメリカ式の解決が生まれ

たのである。

これは歴史的な記述であるが、今日においても事態はそれほど変わっていない。アメリカの大学院協議会 (CGS) 発行の Ph.D. 学位の説明書によれば、「大部分の大学で、大学院博士課程は学士課程の広い基礎の上に置かれており、専門分野ごとに組織された教員の大部分が両方に参与している」(CGS, 1990c, p. 3)。また、同じCGS発行の『大学院教育の管理と運営』の「既設の課程および学科の審査」の項には以下のような説明がある。「学科にとっては、大学院学位課程と学士課程が別々に審査されるのではなく、同時に行われる方が審査の回数も少なくてすみ、効率的で容易という決定的な長所がある。また、ほとんどすべての学科で、大学院学位課程と学士課程の事項は相互関連をもち、教員組織、施設、職員その他の資源はほとんど常に共用されているから、このやり方には十分な意味がある。」(CGS, 1990b, p. 12)。アメリカの大学院と学部の関係は以上のようなものであるから、同一の分野の教員を学部・学科に所属させるか、研究科・専攻に所属させるかというような、今日の日本で起こっているような問題は、アメリカでは生じない。

しかし、アメリカの大学の学部は学問学部と専門職学部の2種類があり、専門職学部の中には大学院段階の課程しかもたないものもある。学問学部は、日本で言えば文理学部に相当するもので、学芸科学学部 (School of Arts and Sciences) あるいは文学科学学部 (School of Letters and Sciences) といった名称をもっている。その他の学部はすべて専門職学部に分類でき、特に私立の有力大学の専門職学部は大学院段階の課程しかもたないものが集まっている。したがって、ここだけを見ると、アメリカの大学には大学院だけの教員組織があることになる。しかし、一つの大学内に、特定の学術分野の学士課程と大学院学位課程が両方があるとき、原則としてその教員組織は一つしかない。

なお、アメリカの大学院教育の基本的な単位組織は学科である。ここで学科といているのはデパートメント (department) の訳であるが、デパートメントという言葉は、もともとは「組織の部分」という意味であるから、事務系の部局にもデパートメントという名称が用いられることがある。そこで、これらと区別する必要がある場合には、アカデミック・デパートメント (academic department) とかティーチング・デパートメント (teaching department) という言い方をする。CGSの『大学院教育の管理と財政』では、学位授与の基礎となる単位組織 (degree-granting unit) について次のように書いている。「大学は、正規の教員が所属する、専門分野 (field of discipline) ごとに組織された教育組織を明確な形でもち、その組織によって大学院学位課程の履修要件の設定、すべての学位授与の推薦が行われなければならない。教員たちの学問上の本拠とはいえない研究センター、研究所その他の施設によって大学院学位の授与がなされるべきではない。」(CGS, 1994, 122頁)。大学院の中心組織が学科であることは、学生の入学の際の手続きからも明らかである。一般に応募者は、大学院本部とともに、学科と接触することが必要となる。大学院本部は最低限の統一的な入学要件を設定するが、実際の入学要件は学科ごとに異なるため、応募者は希望の学科から応募要項を取り寄せなければならない (Cortada and Winkler, 1979, p. 7)。学生の入学に関して、CGSの『大学院教育の管理と

運営』は以下のように説明している。「大学院学生の入学管理については、入学申請、個々の入学許可判定、合格者への通知をふくめ、完全に学科に委ねられている大学が多い。なかには、学科が実質的な決定を行うが、入学申請の手続きと判定結果の記録は大学本部または大学院本部の入学管理部が担当するという大学もある。また、大学によっては、申請書類等の処理やすべての入学関係書類の保存等、すべての入学事務を大学院本部が扱っている。大学院本部の主たる役割は、各学科で適切な入学管理が行われ、大学院の教員組織によってつくられた最低基準が維持されるようにすることにある。」「新入学生の募集の第一次的な責任は、個々の学科にある。学士課程への入学の場合は、応募者の多くが大学そのものを選んでいっているのに対して、大学院の場合は、学習を希望する特定の学科を、場合によっては、そのもとで学びたい特定の教員を選んで応募してくる。」(CGS, 1990b, p. 13-14)。

以上、大学院学位課程は学科に置かれると説明してきたが、厳密にいうと、複数の学科にまたがって置かれる課程もある。つまり学際的な分野に対しては、異なる学科に所属する教員が特定のテーマに対して集まって、課程を運営する。なかには他の学部や他大学の教員を加えて課程を構成する場合もある。こういう組織は学科といわず、グループといたり、ただ単に課程 (program) といたりする。

以上で説明してきたように、アメリカの学部と大学院の基本構造は図1のようになるが、実際には学士課程と大学院学位課程が全部そろっているとは限らない。また、大学院本部の権限範囲は図2のようにかなりの幅があるものである。この構造は相当に複雑であるが、具体的に検討してみると、こうした学部と大学院の構成の姿は大学類型ごとにある程度の傾向性が存在することがわかる。

#### 4. 研究大学の学部及び大学院構成

全米に3千校以上存在し、規模や機能において多様なアメリカの大学を把握するために用いられる類型化には、統計上の必要から政府が行うものから民間の大学案内やジャーナリズムのものまで種々あるが、研究目的で最もよく用いられているものはいわゆるカーネギー分類である。この分類法は1970年に、当時のカーネギー高等教育政策研究協議会の議長であったクラーク・カー (Clark Kerr) の提唱で開発され、その後も何度かの改定を経て、高い有効性と信頼が確認されている (Boyer, 1994, p. vii)。その最新版は1994年改定のものであるが、それによればアメリカの大学は表1に示したように、大きくは博士授与大学型、修士 (総合) 大学型、学士大学型、準学士大学型、専門大学型の5類型に分けられ、博士授与大学はさらに研究大学と博士大学に区別される。またこのそれぞれがI型、II型に細分され、さらに公立と私立に分類される。

表1 カーネギー分類における大学類型（1994年／3,565校）

類型	定義
博士授与大学* 研究大学 (Research Universities) 全 125校 I型 88校 II型 37校	○全領域の学士課程を提供し、博士学位のための大学院教育を実施し、研究に高い優先権を与えている ○(研究型)博士号 <sup>1)</sup> の授与数が毎年50件以上 ○研究開発に関する連邦補助金 <sup>2)</sup> の額が年に、 ・40百万ドル以上→研究大学I) ・15.5百万ドル以上40百万ドル未満→研究大学II
博士大学 (Doctoral Universities) 全 111校 I型 51校 II型 60校	○全領域の学士課程を提供し、博士学位のための大学院教育を実施している。 ○(研究型)博士号 <sup>1)</sup> の授与数が毎年 ・5以上の専門分野 <sup>3)</sup> で40件以上→博士大学I ・3つ以上の専門分野では少なくとも10件以上、または一つ以上の専門分野で20件以上→博士大学II
修士(総合)大学 (Master's(Comprehensive) Colleges and Universities) 全 529校 I型 435校 II型 94校	○全領域の学士課程を提供し、修士学位のための大学院教育を実施している。 ○修士号の授与数が毎年、 ・3つ以上の専門分野 <sup>3)</sup> で40件以上→修士大学I ・一つ以上の専門分野で20件以上→修士大学II
学士大学 (Baccalaureate Colleges) 全 637校 I(自由学芸Liberal Arts)型 166校 II型 471校	○学士学位課程に重きを置く、本来的な学士課程大学 ○学士号の授与数と入学選抜度が ・40%以上の学位を自由学芸分野 <sup>4)</sup> で授与し、かつ入学選抜度が高い→学士(自由学芸)大学I ・40%未満の学位を自由学芸分野 <sup>4)</sup> で授与するか、または選抜度が低い→学士大学II
準学士大学型 (Associate of Arts Colleges) 1,471校	○学芸準学士レベルの資格または学位のプログラムを提供しほとんど例外なく学士学位は出さない <sup>5)</sup>
専門大学型 (Specialized Institutions) 722校	○学士から博士までの学位を出し、その半数以上の学位は単一の専門分野のものである(部族大学(Tribal Colleges and Universities)15校を含む)

\* Doctorate-Granting Institutions

- 1) この博士号には、Doctor of Education, Doctor of Juridical Science, Doctor of Public Health, そしてあらゆる分野のPh. D. が該当する。
- 2) 全米科学財団の資料(NSF)による。
- 3) 連邦教育省の分類による。
- 4) 自由学芸専門とは、英語英文学、外国語、文学、自由一般研究、生命科学、数学、哲学宗教学、物理科学、心理学、社会科学、映像実演芸術、地域民族研究、多元学際研究をいう。  
職業技能専門とは、農学、保健、建築、商管理運営、コミュニケーション、自然資源保護、教育、工学、健康科学、家政学、法学法律研究 図書館文書館学、マーケティング流通、軍事科学、防護サービス、公経営サービス、神学をいう。
- 5) ここにはコミュニティ・カレッジ、ジュニア・カレッジ、テクニカル・カレッジが属する。

これらの類型のうち、大学院制度として注目すべきなのは、博士授与大学と修士(総合)大学型であり、ここでは博士授与大学の代表格と目される研究大学I型に属する大学と、修士(総合)大学型に属する大学について、学部と大学院の構造及び関係を検討する。1994年版のカーネギー分類では、博士号授与大学236校の内の88校が研究大学I型に分類されている(Boyer, 1994, p. xiv)。

まず取り上げるのは私立研究大学の場合である。研究大学 I 型の中で、私立は29校と大学数こそ少ないが、ここには歴史の古い、あるいは特別強力なファンドによって創設されたようないわゆる有名大学がならんでいる。この類型の大学の典型は、イエール大学にみることができる。表2にあるように、イエール大学では、学問学部である文理学部 (Faculty of Arts and Sciences)は学士課程であるイエール・カレッジと大学院学位課程である文理大学院(Graduate School of Arts and Sciences)をもつ。他の10学部、すなわち神、法、建築、芸術、演劇、林業環境、管理運営、医、音楽、看護学部はすべて専門職学部であり、芸術学部だけが学士後期の学生をもつが、その教育は文理カレッジで実施されるので、実質は専門職学部は大学院学位課程しかもたない。ただし、その名称には「大学院」の文字はない。

表2 イエール大学 (Yale University) の学部・大学院構成と授与学位

学部構成	名称	学士	学士	修士	博士
		前期	後期		
神学部	Divinity School	×	×	○	×
文理(学芸科学)学部	Faculty of Arts and Sciences				
文理カレッジ	Yale College	○	○		
文理大学院	Graduate School of Arts & Sciences			○	○
法学部	Law School	×	×	○	○
建築学部	School of Architecture	×	×	○	×
芸術学部	School of Art	×	○*	○	×
演劇学部	School of Drama	×	×	○	○
林環境学部	School of Forestry and Environmental Studies	×	×	○	○
管理運営学部	School of Management	×	×	○	×
医学部	School of Medicine	×	×	○	○
音楽学部	School of Music	×	×	○	○
看護学部	School of Nursing	×	×	○	○

□文理学部の大学院課程のみが大学院 (Graduate School) と称する。

\* 文理カレッジで実施

Yale College Introductory Information : 1985-86 及び当該大学WWWホームページ(1997年5月1日)にもとづく。

さらにみると、文理学部の大学院が博士課程をもっているのは当然として、専門職学部の中で大学院学位課程として博士と修士の両課程をもつのは法、演劇、林業環境、医、音楽、看護の6学部で、神、建築、芸術、管理経営の4学部は修士課程しかもたない。

また、アメリカ最古の大学であるハーバード大学をみると、表3に示したようにやはり学問学部である文理学部には、学士課程としてのハーバード・ラドクリフ・カレッジと大学院学位課程である文理大学院が置かれる。他の9学部はすべて大学院学位課程のみの専門職学部であるが、名称に「大学院」を冠するのは3学部のみである。

表3 ハーバード大学 (Harvard University) の学部・大学院構成と授与学位

学部構成	名称	学士 前期	学士 後期	修士	博士
商経営大学院	Graduate School of Business Administration	×	×	○	○
デザイン大学院	Graduate School of Design	×	×	○	○
歯学部	School of Dental Medicine	×	×	○	○
神学部	Divinity School	×	×	○	○
教育大学院	Graduate School of Education	×	×	○	○
文理(学芸科学)学部	Faculty of Arts and Sciences				
文理カレッジ	Harvard and Radcliffe Colleges	○	○		
文理大学院	Graduate School of Arts and Sciences			○	○
行政大学院	John F. Kennedy School of Government				
法学部	Law School	×	×	○	○
医学部	Medical School	×	×	×	○
公衆衛生学部	School of Public Health	×	×	○	○

□文理学部の大学院課程と一部の学部が大学院 (Graduate School) と称する。

*Harvard University Facts & Figures : January 1984*及び当該大学のWWWホームページ (1997年4月25日) にもとづく。

また、ハーバードの場合は、医学部を除くすべての学部で大学院学位課程として修士と博士の両課程をもっている。医学部は博士の課程しかもたない。

次に公立について見てみよう。研究大学I型に属する公立大学は59大学で、ここには連邦政府の援助を受けて設立された農工大学、いわゆるランドグラント・カレッジに起源をもつ州立巨大大学が多数含まれている。ここでは、カリフォルニア大学バークレー校とウィスコンシン大学マジソンを例として取り上げる。

まずバークレーの場合、表4のように、商、化学、教育、工、環境設計、ジャーナリズム、法、文理、情報管理システム、自然資源、検眼、公衆衛生、公共政策、社会福祉の14学部をもち、すべての学部大学院学位課程が置かれている。

この内の化学、工、環境設計、文理、自然資源の5学部は前期と後期を通じた学士課程をもち、商、公共政策、社会福祉の3学部が学士後期をもち、教育、ジャーナリズム、法、情報管理システム、検眼、公衆衛生の6学部は大学院学位課程のみで学士課程をもたない。バークレーの場合、学部の名称であるカレッジとスクールには使い分けがあり、カレッジは学士前期課程からの教育を行う学部の呼称であり、スクールは学士課程をもたないか、もっていても後期課程しかもたない学部の呼称とされている。また、大学院学位課程のみの学部のうち、教育とジャーナリズム学部が、また学士後期の課程をもつ公共政策学部が大学院 (グラデュエート・スクール) と称しているが、全大学院学位課程を調整する組織として大学院本部 (グラデュエート・ディビジョン) が置かれている。

ちなみに、ジャーナリズム学部を除くすべての学部で、大学院学位課程として修士及び博士の両課程が置かれている。ジャーナリズム学部は修士課程のみをもつ。

次にウィスコンシン大学マジソン校について見てみると、表5のように農生命科学、商、教

表4 カリフォルニア大学バークレー校 (University of California at Berkeley) の学部・大学院構成と授与学位

学部構成	名称	学士 前期	学士 後期	修士	博士
商学部	Walter A. Haas School of Business	×	○	○	○
化学学部	College of Chemistry	○	○	○	○
教育大学院	Graduate School of Education	×	×	○	○
工学部	College of Engineering	○	○	○	○
環境設計学部	College of Environmental Design	○	○	○	○
ジャーナリズム大学院	Graduate School of Journalism	×	×	○	×
法学部	School of Law	×	×	○	○
文理(文学科学)学部	College of Letters and Science	○	○	○	○
情報管理システム学部*	School of Information Management and Systems	×	×	○	○
自然資源学部	College of Natural Resources	○	○	○	○
検眼学部	School of Optometry	×	×	○	○
公衆衛生学部	School of Public Health	×	×	○	○
公共政策大学院	Graduate School of Public Policy	×	○	○	○
社会福祉学部	School of Social Welfare	×	○	○	○

□全大学院学位課程を調整する組織として大学院本部 (Graduate Division) が置かれている。

\* 図書館情報学部 (School of Library and Information Studies) を改組

Berkeley General Catalog: 1993-94及び当該大学のWWWホームページのデータ(1997年4月17日)にもとづく。

表5 ウィスコンシン大学マジソン校 (University of Wisconsin at Madison) の学部・大学院構成と授与学位

学部構成	名称	学士 前期	学士 後期	修士	博士
農生命科学部	College of Agricultural and Life Sciences	○	○	○	○
商学部	School of Business	×	○	○	○
教育学部	School of Education,	×	○	○	○
工学部	College of Engineering,	○	○	○	○
人間環境学部*	School of Human Ecology	○	○	○	○
ジャーナリズムマスコミ学部	School of Journalism and Mass Communication	×	○	○	○
法学部	Law School	×	×	○	○
文理(文学科学)学部	College of Letters and Science,	○	○	○	○
図書館情報学部	School of Library and Information Studies	×	×	○	○
医学部	Medical School	○	○	○	○
音楽学部	School of Music	×	○	○	○
看護学部	School of Nursing	○	○	○	○
薬学部	School of Pharmacy	×	○	○	○
社会福祉学部	School of Social Work	×	○	○	○
獣医学部	School of Veterinary Medicine	×	×	×	○

□法, 医, 獣医学博士(専門職学位)を除く大学院学位課程を統轄する組織として大学院本部(Graduate School)が置かれている。

\* 家族資源消費者科学部 (Family Resources and Consumer Sciences) を改組

University of Wisconsin Graduate School Catalog. 1994-96及び当該大学のWWWホームページ(1997年4月25日)にもとづく。

育、工部、人間環境、ジャーナリズムマスコミ、法、文理、図書館情報、医、音楽、薬、社会福祉、獣医の15学部があり、すべての学部で大学院学位課程が置かれている。

この内、前期後期を通した学士課程をもつ学部は農生命科学、工、人間環境、文理、医、看護の6学部で、学士後期をもつ学部は商、教育、ジャーナリズムマスコミ、音楽、薬、社会福祉の6学部で、大学院課程のみ学部は法、図書館情報、獣医の3学部である。学部で大学院の名称を用いるものではなく、法、医、獣医学の専門職学位を除く全大学院学位課程を統括する組織として大学院（グラジュエートスクール）が置かれている。なお、獣医学部を除くすべての学部で、大学院学位課程として修士と博士の両課程が置かれている。獣医学部は博士課程のみをもつ。

このように、研究大学で公私立とも大学院学位課程が充実していることは明らかである。しかし、公私にかかわらず、研究大学あるいは博士大学という名称からまどわされてはならないことは、カーネギー分類の定義からもわかるように、これらの大学が強力な学士課程をもっていることである。また、研究大学に分類される大学でも、イェール大学の神、建築、芸術、管理経営学部やバークレー校のジャーナリズム学部のように博士課程をもたない例も多い。これはこれらの学部の水準が低いのではなく、学問学部と違い、専門職学部の一部では「博士」の名称の学位があまり価値を持たず「修士」の名称の学位が最も尊ばれる、あるいは「博士」と「修士」には差がないことによる。文理学部では研究学位としてのPh.D. に代表される博士学位が最高学位であることは間違いなく、専門職系では医者には第一学位そのものが「博士」の名称で出される。しかし、経営管理分野のM.B.A. (Master of Business Administration) に象徴されるように、実務職としては修士の学位が重要視される分野がほとんどで、博士は特殊なものである。また、神学では「博士」と「修士」の名称の違いが大学の考え方の違いで、その間に一般的な上下関係と見出すことはできない。

以上の点は公私に通じて指摘できるが、学士課程と大学院本部のあり方には、公私立間で多少の差異がみられる。私立研究大学では、文理大学院のみが学士課程をもち、他の学部は大学院学位課程のみからなる。また各学部の独立性が強く、大学院本部は置かれない。これに対して公立研究大学では文理学部以外にも主として工学、農学系の学部で学士前期からの、また他の医学、法学を除く専門職学部でも学士後期からの課程をもつ。また、一部の専門職学部を除くことはあるにしても、大学全体の大学院学位課程を統括する大学院本部が置かれている。

この関係を図示すると図3と図4のようになる。

図3 私立研究大学型

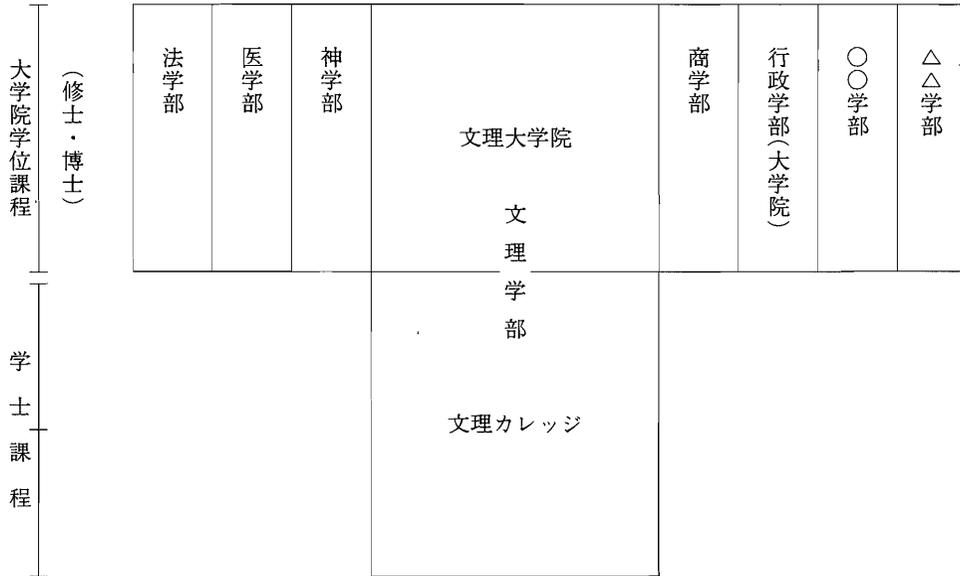
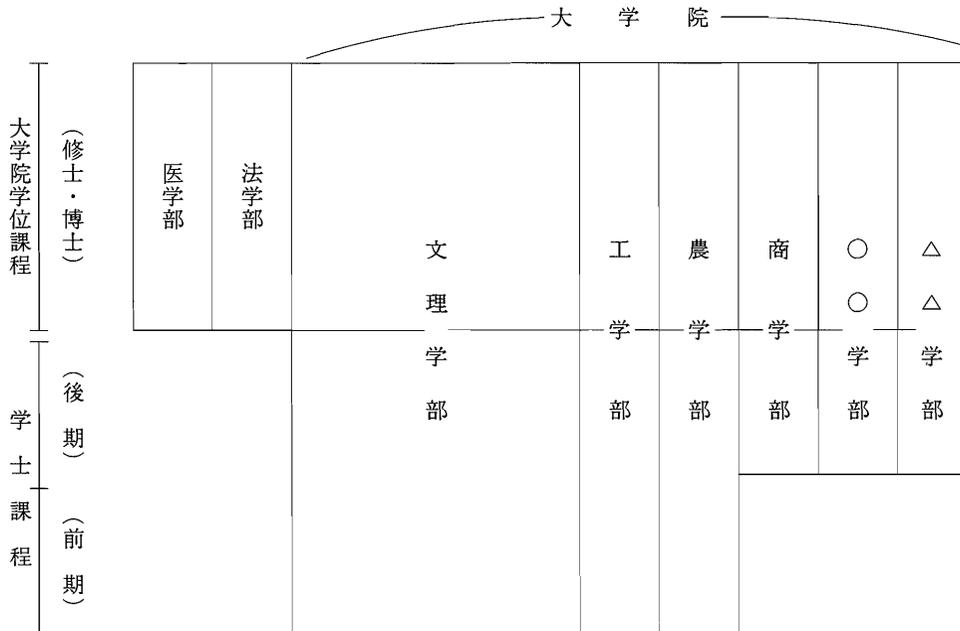


図4 公立研究大学型



5. 修士大学の学部及び大学院構成

次に修士大学院について、学部と大学院の構成をみてる。カーネギー分類では、529大学が修士(総合)大学に分類されているが、ここでは修士I型の大学を例に学部大学院構成を検討

する。修士大学の内、修士 I 型は435大学であり、公立は249大学、私立は189大学である。(Boyer, 1994, p. xiv)

まず、私立の修士 I 型大学として、学部数の比較的多い例としてハートフォード大学を、少ない例としてエマーソン大学を取り上げる。

ハートフォード大学は、表6に示したように、文理、商公経営、教育看護保健、工、芸術、女子総合カレッジ、音楽、芸術短期、技術短期の9学部をもつ。この内、大学院学位課程である修士課程をもつのは商公経営、教育看護保健、工、芸術、音楽の5学部で、教育看護保健学部には教育学の博士課程も置かれている。学士課程は、学問学部と専門職学部の区別なく、すべての学部に、前期課程から置かれており、芸術短期及び技術短期学部には準学士課程となっている。大学院の名称をもつ学部はなく、大学院課程を統括する組織としての大学院本部は特には置かれていない。

表6 ハートフォード大学 (University of Hartford) の学部・大学院構成

学部構成	名称	学士 前期	学士 後期	修士	博士
文理(学芸科学)学部	College of Arts and Sciences	○*	○	×	×
商公経営学部	Barney School of Business and Public Administration	○	○	○	×
教育看護保健学部	College of Education, Nursing and Health Professions	○*	○	○	○
工学部	College of Engineering	○	○	○	×
芸術学部	Hartford Art School	○	○	○	×
女子総合カレッジ	Hartford College for Women	○*	○	×	×
音楽学部	The Hartt School	○	○	○	○
芸術短期	Hillyer College	○*	×	×	×
技術短期	Ward College of Technology	○*	×	×	×

□The Center for Graduate and Adult Academic Servicesが入学や学生へのサービス機能を果たすが、大学院組織はない。

\* 準学士課程又は準学士課程あり。

当該大学WWWホームページ(1997年5月2日)にもとづく。

エマーソン大学は、表7に示したように芸術、コミュニケーション管理公政策、コミュニケーション科学障害、文理の4学部をもつ。この内、大学院学位課程である修士課程は芸術、コミュニケーション管理公政策、コミュニケーション科学障害の3学部で、コミュニケーション科学障害には教育系の博士課程も置かれている。学士課程は、学問学部と専門職学部の区別なく、すべての学部に、前期課程から置かれている。大学院の名称をもつ学部はないが、大学院課程を統括する組織としての大学院本部(Graduate Division)が置かれている。

表7 エマーソン大学 (Emerson College) の学部・大学院構成

学部構成	名称	学士 前期	学士 後期	修士	博士
芸術学部	School of the Arts	○	○	○	×
コミュニケーション 管理公政策学部	School of Communication, Management & Public Policy	○	○	○	×
コミュニケーション科学 障害学部	School of Communication Sciences and Disorders	○	○	○	○
文理(自由学芸学際)研究 部	Institute of Liberal Arts & Interdisciplinary Studies	○	○	×	×

□全大学院学位を統轄する大学院 (Graduate Division) が置かれている。  
当該大学WWWホームページ (1997年5月2日) にもとづく。

次に公立の修士大学として、比較的大規模な例としてカリフォルニア州立大学ロサンゼルス校を、比較的小規模な例としてウィスコンシン大学ホワイトウォーター校を取り上げる。カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校は、表8のように芸術文学、商経済、教育、工技術、保健福祉、自然行動社会科学の6学部をもつ。そして、修士課程はすべての学部には置かれているが、博士課程を置く学部はない。一方、学士課程は、学問学部と専門職学部の区別なく、すべての学部には、前期課程から置かれている。大学院の名称をもつ学部はなく、大学院課程を統括する組織としての大学院本部は特には置かれていない。

表8 カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校(California State University at Los Angeles)の学部・大学院構成と授与学位

学部構成	名称	学士 前期	学士 後期	修士	博士
芸術文学部	School of Arts and Letters	○	○	○	×
商経済学部	School of Business and Economics	○	○	○	×
教育学部	School of Education	○	○	○	×
工技術学部	School of Engineering and Technology	○	○	○	×
保健福祉学部	School of Health and Human Services	○	○	○	×
自然行動社会科学部	School of Natural, Behavioral, and Social Sciences	○	○	○	×

□特に大学院組織は置いていない。  
Cal State LA. General Catalog. 1984-85及び当該大学WWWホームページ (1997年5月1日) にもとづく。

ウィスコンシン大学ホワイトウォーター校の学部構成は、表9のように芸術コミュニケーション、商経済学部、教育学部、文学部の4学部をもつ。そして、修士課程はすべての学部には置かれているが、博士課程を置く学部はない。一方、学士課程は、学問学部と専門職学部の区別なく、すべての学部には、前期課程から置かれている。大学院の名称をもつ学部はなく、大学院課程を統括する組織としての大学院本部が置かれている。

表9 ウィスコンシン大学ホワイトウォーター校(University of Wisconsin at Whitewater)の学部・大学院構成と授与学位

学部構成	名称	学士 前期	学士 後期	修士	博士
芸術コミュニケーション学部	College of Arts and Communication	○	○	○	×
商経済学部	College of Business and Economics	○	○	○	×
教育学部	College of Education	○	○	○	×
文理(文学科学)学部	College of Letters and Sciences	○	○	○	×

□全大学院学位を統轄する組織として大学院 (School of Graduate Studies) が置かれている。  
*University of Wisconsin Whitewater Graduate Bulletin, 1993-95*及び当該大学のWWWホームページ(1997年4月25日)にもとづく。

このように、修士大学では、私立であっても文理系以外の学部で学士課程を持ち、また公立も含め分野を問わず学士前期からの教育を実施している。大学院課程については、公立では修士に限定されるが、私立では博士課程を置いている学部もある。これは、公立が州の計画等で修士大学として作られているのに対して、私立は独自の発展の結果として修士大学に分類される状況にあるといった事情の違いによるものと考えられる。

また、私立では文理学部で大学院課程を置く例は少なく、これに対して公立の場合は文理学部にも修士課程を置く場合が多い。また大学院本部については、公私とも置く場合と、置かない場合があり、どちらが一般的ともいえない。これを図に示すと、図5、図6のようになる。

図5 私立修士大学型

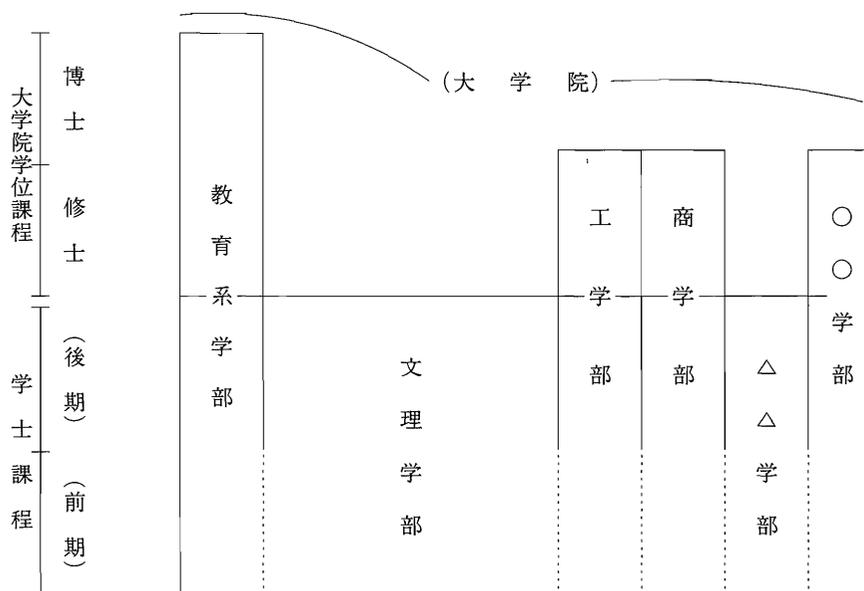
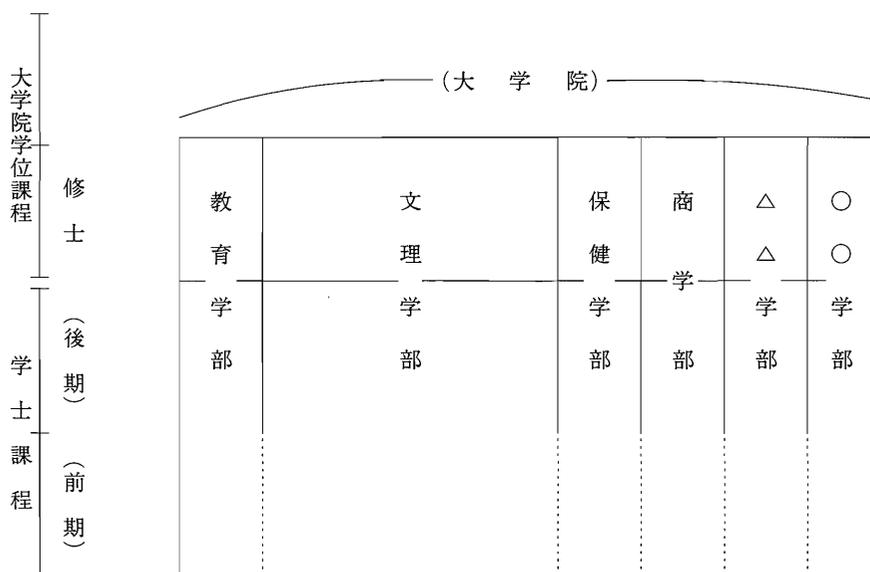


図6 公立修士大学型



## おわりに

以上、アメリカの大学院の組織構造についてみてきた。もとより、アメリカの大学の制度的なあり方については、国中を支配する法律による規定があるわけではない。したがって、その解明には、一般的な制度概念の発掘と具体例への適用が課題となり、また具体例からの一般化が必要となる。

本稿は、大学院についてそれを試みたものであるが、ようやく一般的な概念あるいは用語法の整理ができたところで、具体例の分析、あるいはそれからの一般化には不十分な点がある。また、実際の大学院の機能をみるためには、これらと合わせて学位のあり方をその取得要件と含めて明らかにする必要があり、現在その作業を進めている。

## 参 考 文 献

### <英文>

Boyer, Ernest L. *A Classification of Institutions of Higher Education*. The Carnegie Foundation for the Advancement of Teaching, 1994.

Clark, Burton R. & Neave, Guy, *The Encyclopedia of Higher Education*, Vol.2, Pergamon Press, 1992a: Vol. 2. 1992b.

Cortada, James W. and Winkler, Vera C. *The Way to Win in the Graduate School*, Prentice-Hall, 1979,

Council of Graduate Schools (CGS) *The Doctor of Philosophy Degrees*, 1990.

その他、参考にした各大学のカatalog、ウェブサイトについては本文中に記載。

### <邦文>

館昭「アメリカの学位における『中世』と『現代』」(『IDE現代の高等教育』1991年7月号)

館昭「アメリカにおける学位と専攻分野の関係について」『学位研究』第1号, 1993年。

館昭「アメリカの大学院における専門職教育」『IDE現代の高等教育』1993年7月号。

館昭「アメリカの大学院の制度と組織」『高等教育研究紀要』第14号, 1994年。

館昭「アメリカの学位制度について」『大学と学生』第355号, 1995年2月。

大学院協議会(CGS)編(館昭訳)『大学院の組織と管理運営』(『高等教育研究紀要』第14号所集)1994年。

{ABSTRACT}

## Organizational Structures of Graduate Education in the United States

Akira TACHI\*

In this article I study organizations of graduate education in the United State to find general patterns of its structures and differences from Japanese ones.

Uses of the terms of “college”, “faculty”, “school” and “graduate school/division” are examined and differentiated carefully. The American graduate school is different from the Japanese *daigakuin* which is translated as the graduate school. The term of the graduate school is usually for the office or unit with responsibility for central university graduate affairs in the US. But the Japanese *daigakuin* is the complex of graduate faculties and graduate porgrams. I show that this difference is often a cause of Japanese misunderstanding on the American graduate education.

To find general patterns of structures of graduate organizations, several universities are studied as cases according to the Carnegie Classification. Four types of organizational structures of graduate education, “private research universtiy”, “public research university”, “private master’s university”, and “public master’s university” are suggested to generaleze its structures.

---

\* Professor, National Institution for Academic Degrees

